

## 福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議 ワーキンググループ全体会合（第4回）の議事要旨

日時：令和4（2022）年2月4日（金）17時00分～18時30分

形式：WEB会議

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

### 議事次第

- ・事務局から「将来像の実現に向けた基本方針と取組（案）」、「地域の将来像の実現に向けて活用し得る令和4年度政府予算案」及び「事業推進ワーキンググループの設置（案）」について説明
- ・意見交換

### 参加者の主な発言

#### （1）全体像について

- ・立地地域の将来像の実現には、立地地域、国、電力事業者がともに協力する共創との視点が不可欠。立地地域では解決困難な課題も存在することから、国と電力事業者が主体的に実効性を持って取り組むことを期待。
- ・原子力政策、原子力発電の将来像の明確化を進めながら、地域振興についての議論も行っていくとの考えを示すことが必要。
- ・国等の取組みが骨太なものとなるよう、新しいものを追加し、漠然としているものは具体的に何を打ち出すのかはっきりさせ、迫力を持たせてほしい。
- ・工程表について、誰が、どのような予算を活用し、何を実施するのかといった点について、より具体化すると、事業と予算との関連がより明確になると考える。また、将来像実現のための、実体的な支援制度を用意してもらいたい。
- ・電力事業者は地元企業として、地域の一員として社会貢献に積極的に取り組んでほしい。
- ・電力事業者として、地域の一員として、地域の持続的発展に向けて、主体的かつ積極的に取り組んでいきたい。

- ・複数の市町が所在する嶺南地域を1つのエリアとして捉え、地域全体を底上げするとの視点・取組が必要。
- ・工程表について、大まかすぎて具体性が少ないため、わからないものも多く、明解な説明が欲しい。
- ・全体像の中を総じてみると、何で経済を立てていくのか、稼げる産業を創出するとの視点が弱いのではないか。付加価値を生む産業基盤を育成・創出するとの観点がもっと必要。
- ・国として、もっと力強い支援スキームを求めたい。あわせて、より高度でシンボリックな共創プロジェクトの立案・協議を引き続き深めてほしい。

## (2) 個別の取組について

- ・安全を最優先にした原子力の持続的な活用にあたり、安全性を究極に高めた革新炉の研究をしっかりと進め、それに必要な人材育成もやっていくということ、必ずしも福井県で行われるものでなくとも、しっかりと書いていくべき。
- ・「もんじゅ」を含む周辺地域を高速炉研究開発の中核的拠点とするための調査・検討への着手を検討してほしい。
- ・試験研究炉について、整備着手を工程表に記載してほしい。
- ・将来像（素案）に基づき、次年度から早速、これを具体化し、かつ先導的な取組みを展開していくべく、日本初の原子力発電由来の電気を活用した水素製造の実証を実施する。
- ・地方都市へのデータセンターの立地は、当該エリアにおけるデータの地産地消や関連する先端企業の進出を期待でき、「スマートで自然と共生する持続可能な地域」を実現する上での象徴的な取組となることから、企業の紹介・斡旋等の支援をお願いしたい。
- ・北陸新幹線敦賀開業を契機とした嶺南地域におけるゼロカーボン交通の実現や敦賀港のカーボンニュートラル化に向けて、国の支援をお願いしたい。また、水素関連の国の研究機関等の誘致をお願いしたい。
- ・将来像の実現のためには、道路等のインフラ整備が必要。
- ・デジタル活用による遠隔医療のみならず、高度医療機関の整備が必要。
- ・農業や漁業分野のスマート化を目指す事業者と様々なアイデアやノウハウを有する事業者とのマッチングの場の新設を検討している。
- ・停電が起こらない安全・安心なエリアの実現のために、嶺南地域でどのようなことが実施可能か検討を開始する。
- ・火力発電所でのバイオマス混焼拡大や燃料アンモニアの実現に向けた取組を実施する。
- ・廃止措置に関わる要員の確保に向け、若手技術者や学生を対象とした新たな研修

コースの新設を行う。

- ・ 廃炉リサイクルビジネスを国家プロジェクトとして進めてもらいたい。
- ・ 廃炉リサイクルビジネスの産業化に向け、電力事業者として福井県の検討に積極的に参加していく。
- ・ 地域の持続的発展に貢献する観光の在り方について調査を実施。
- ・ エネルギー環境教育体験施設の運営にかかる国や事業者の更なる関与、主体的な関わりを示していただきたい。

### (3) 事業推進ワーキンググループについて

- ・ 継続的に各主体の取組状況をフォローアップし、取組の深化・充実等を図る事業推進ワーキンググループの設置に賛成。
- ・ 取組状況をフォローアップする過程で、工程表の柔軟な見直しをお願いしたい。